

目 次

第 1 篇 試験合格 ～ 免許登録(新規申請)まで

1. 建築士法の平成30年改正について	3
1-1 背景・概要	3
1-2 実務経験の見直し方針	5
2. 建築士免許の登録について	7
2-1 一級建築士名簿への登録	7
2-2 一級建築士免許の登録申請	7
2-3 二級建築士名簿・木造建築士名簿への登録	8
2-4 二級・木造建築士免許の登録申請について	8
2-5 免許登録要件である実務経験における対象実務について	9
3. 一級建築士の免許登録の概要	15
3-1 免許登録申請から免許証明書の交付までの流れ	15
3-2 必要な実務経験年数と実務経験の審査について	18
3-3 免許証明書の交付	19
4. 一級建築士の免許登録申請について	20
4-1 新規申請の方法	20
4-2 免許登録申請時に必要な書類について（一級）	21
4-3 主な書類の記載要領等について	26
5. 二級・木造建築士の免許登録の概要	59
5-1 免許登録申請時に必要な書類について（二級・木造）	59
5-2 二級・木造建築士に係る免許証明書取得までの流れ	60
5-3 必要な実務経験年数と実務経験の審査について	62
5-4 免許証明書の交付	63
6. Q & A（建築士の免許登録申請等について）	64
7. 建築士会・日本建築士会連合会について	78
8. 都道府県建築士会所在地一覧	80

目次

第2篇 建築士業務の実践編

— 免許登録後に建築士として留意すべき事項について —

1. 建築士資格とは？ 建築士資格者にできること	
— 建築士法と建築士資格、建築士事務所、個人の資格者と所属する建築士など	83
1-1 建築士法の適切な理解が基本	83
1-2 建築士という資格名称について	84
1-3 建築士の行う業務 — 設計と工事監理は独占業務 —	84
1-4 建築士業務を行う者は建築士事務所に所属する建築士	84
1-5 建築士事務所の開設等について	85
2. 建築士資格者が従うべき規範とは？	
— 職能人、専門技術者である建築士が従うべきルールとしての倫理規範など	88
2-1 社会の規範としての法と倫理	88
2-2 社会的有用性の見地からみた法と倫理	89
2-3 建築士と倫理のコンフリクト	90
2-4 職能と職業倫理・技術者倫理について	90
3. 建築士資格者の負う責任とは？	
— 法的責任と倫理的責任など	98
3-1 建築士が負う法的責任	98
3-2 建築士が業務上負う倫理的責任と留意点	101
3-3 建築士が業務上負う責任の全体像	102
4. 建築士業務の契約とは？ どのように建築士の業務報酬を定める・・	
— 業務委託契約と業務報酬基準の告示など	103
4-1 契約とは何か — 公法と私法に跨る契約 —	103
4-2 契約の当事者、建築士法による契約締結の義務など — 3つのプロセス —	104
4-3 業務委託契約に用いる契約書類について	107
4-4 建築士の業務と工事請負契約	108
4-5 建築士業務の報酬について	110
5. 建築士業務のリスクとは？ どのようにリスクを管理をする・・	
— 行政処分、事故、保険、紛争など	118
5-1 建築士業務におけるリスクとは？ — リスク管理の必要性 —	118
5-2 建築士の業務と処分というリスク	119
5-3 建築士の業務と事故というリスク・対処	121
5-4 建築士の業務とリスク管理としての保険の付保	122
5-5 建築士の業務と紛争というリスク	124
6. 建築士資質等の維持向上とは？ どのように自己研鑽を継続する・・	
— 定期講習の受講、CPD活動、リスキリングなど	126
6-1 建築士の自己研鑽の責務 — 法的義務の定め —	126
6-2 建築士と定期講習の受講	127
6-3 建築士とCPD活動	128
6-4 建築士とリスキリングなど	129
7. おわりに — 結びにかえて	
— 建築士としての「はじまり」と本ガイドブックの今後の利活用の奨め	130
「引用・参考文献紹介」	131